



栄区 の 魅力 野菜 発見

栄区の農業データ
主な作物の作付け面積ランキング(単位a)
平成17年横浜市の農業より

ほうれん草	水稲	だいこん	じゃがいも	さといも	キャベツ	きゅうり
431	394	341	284	249	231	213

はくさい	ねぎ	たまねぎ	トマト	ナス	さつまいも	にんじん	その他	豆類	花き類
189	174	168	163	158	150	131	879	140	30



栄区の「農」を知ろう
“地元産野菜”のすすめ

発行：平成22年10月

発行者：横浜市栄区役所区政推進課

〒247-0005 横浜市栄区桂町 303-19
電話：(045)894-8161
FAX：(045)895-2260



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



栄区いたち川マスコット
タッチーくん

栄区の「農」を知ろう

農

“地元産野菜”のすすめ

人

食

栄区の「農」知っていますか？

栄区の特徴の一つ「緑」は、生活にうるおいを与え、

良好な環境を支えています。

この「緑」の中には

「農」が含まれています。

少し足をのばせば、

みなさんの身近にも

「農」を見つけることが

できるでしょう。



そんな栄区の「農」に

目を向けてみませんか？

地産地消

元で 産まれた野菜を 元の家庭で 費する

sakae 栄区の「農」は「地産地消」

地元で生産された農産物を、地元で消費することを「地産地消」といいます。栄区には、丘陵地が多いため、昔から限られた土地で、様々な農産物が季節ごとに少しずつ栽培されてきました。

農産物の多くは地元の直売所で販売されるとともに、一部は鎌倉などの近隣地域に出荷されています。

まさに「地産地消」が、栄区の「農」の特徴であるといえます。

sakae 「地産地消」の魅力

まず何より、とれたての新鮮な野菜や果物を美味しく食べることができます。また地元で生産されているので、消費者が自分の目で食の安全性を知ることができます。地元で生産され消費されれば、自動車などによる輸送も少なく地球温暖化対策につながります。

そして何より、農地や農家の人たちの「農」の営みと、消費者の距離が近いことが、「地産地消」の魅力ではないでしょうか。

sakae 「地産地消」から「農」を感じてみませんか

直売所では、農家の方から野菜の美味しい食べ方を聞くことができるかもしれません。

緑地の一端である農地では、季節の移り変わりを感じることもできるかもしれません。

また消費者の中にも、すでに「地産地消」を楽しむ活動をしている人たちがいるかもしれません。

少し足をのばせば、さまざまな場所で「農」を感じる事ができるはずです。

「地産地消」から「農」を感じてみませんか。今まで気がつかなかった地域の魅力が見つかるはずです。

栄区の「農」の今昔

昔は…

柏尾川やいたち川沿いの低地、それらの川に流れ込む谷戸や三浦半島にも連なる丘陵地の比較的平らな土地に田畑が広がっていました。

収穫された農作物は、地元で消費されるもののほか、栄区の西側で栽培されたものは鎌倉や逗子へ、東側のは磯子や金沢といった地域に、農家の方が足を運んで販売していました。

今は…

柏尾川の西側にある田谷・長尾台・金井では、まとまった農地が残っています。東側では、昭和40年代からの宅地開発で多くの農地が失われました。

現在は、いたち川沿いの一部、円海山や荒井沢周辺のほか、住宅地の中に小さな農地が点在しています。

